

# 「先生のための学校」誌上 開校

学力研 先生のための学校 校長 久保 齋

## はじめに

4月、新しい学年が始まります。今年度は新しい企画として、「先生のための学校」を教育技術誌上をお借りして、全国の皆さまに公開することにしました。

「先生のための学校」とは文字通り「先生のための学校」です。『どんな初歩的なことでも質問できて、それをなぜそうするのか？がしつかり学べて、自分の実践をみんなに聞いてもらえて、みんなでワイワイしゃべれて「教育とは何か」「授業とは何か」という本質的なところまで深められる。そんな学校をつくらうよ!』という呼びかけのもとに、学力研の仲間と大阪で十一年間続けてきた先生による先生のための学校です。

土曜日の半日を使って

第一講座 久保講座とデスカッション

第二講座 学力研の先生による講座

学年会 各学年で実践交流

放課後 ソフトドリンクでダベリング

「先生のための学校」は実に愉快で楽しい学校です。今年からは新たに「若い先生のための学校」が3月から大阪で、「名士呂屋先生のための学校」が5月から開校することになりました。

これを機会に全国に「先生のための学校」が広がるというなあと願っています。

では、第一講座を始めましょう。私の講座は毒があつて、眉唾ものです。それは違うだろうと叫びながら自分の実践とすり合わせながら聞いてください。そして、学年や同僚と話し合ってみてくださいね。きつと実りはあると思います。第一講座は久保が、第二講座は学力研の先生方をお願いする予定です。

こんな感じで教育技術2年で全国のみなさんに「先生のための学校」を広めていきたいと思えます。

## 第二講座 4月は「音読」で

### クラスをつくる

4月は十四回も2年生を担任し、1年生で難儀になったクラスを立て直しされている「先生のための学校」の講師の先生のお話を紹介しましょう。

### 子どもと触れ合う

まず、どの子どもと会話し、やさしく受け止めるためにはどうなるためのシステムが大切。その先生は子どもたちに「お友だちにいいことをした時、みんなのためにいいことをした時は必ず先生に報告しなさいね」と言っておくそうです。いいことの報告なので、先生は必ず「いいことしたわね」と褒めてくれる。だから子どもたちはほとんどんやってくるそうです。どんなに忙しくても顔を上げ、目を見て「いいことしたわね」とほめる。これで教室は暖かい雰囲気になります。

### 学力づくりで子どもを鍛える

「学力づくりでクラスをつくる」「授業づくりでクラスを変える」がモットーの先生です。4月は「音読」でクラスをつくるそうです。

音読でクラスをつくりまします。4月の最初の国語教材を使って、徹底的に音読を鍛えます。目標は「一人で、みんなの前で、2年生教材を初見で音読できる」です。4月の終わりには、班で担任の先生にお願いにいった1年から6年のクラスに、給食時間に訪問させていただいて、一人、一人の音読をしつかりと聞いて頂く取り組みです。

音読はもちろん最初は先生の指導で丁寧に始めます。そして次に班の取り組みと先生の個別指導で一人ひとりを鍛え、最後にはお兄さんやお姉さんに、1年生にも聞いてもらうのです。国語の授業で子どもを鍛え、班を鍛えていくのです。

声の小さな子どもにはこう言うそうです。「恥ずかしいと言って声の小さいのは、乱暴でみんなを困らせているのと同じようにわがままなのです。乱暴な人は努力して乱暴を直さないといけないし恥ずかしくて声の小さい人は努力して大きな声が出るようにしなければなりません。頑張りましょう」

こう言って、毎朝、教室の壁に発声練習の紙を貼って、みんなが発声練習してお腹から声が出るように指導し授業を始めます。

2年生の音読は読点の前で息を吸い、次の読点までは一息で読むことを指導します。これが一年生の「分かち読み」との違い。「大人の読み方」と一緒だと言って2年生の自覚を高めさせます。音読指導の仕方は『授業づくりと学級経営の技88』を参考にしてください。

一斉読み、一斉指導で会話などの表現読みができるようにしたら、班で班長が司会をして班での音読学習を始めます。それと同時に、一人一人の音読を聞いてやりながら励まし、評価していきます。

よく行われている「音読カード」は格差を助長し、恵まれない子どもたちを悲しませるものです。そうではなく、先生が一人ひとり音読を聞き、教師の力で子どもたちの音読を高めていきましょう。

音読を教材ごとに適当にやっていますが子どもたちの音読の力は伸びません。一か月の音読実践で一気に高いレベルまで伸ばし切ってしまうと、子どもたちはそのレベルと一年間維持し、心地よい授業実践がはじまるのです。

### 親に信頼を得るノート指導

どんなに音読を頑張っている、親にはわかりません。親の信頼を得るためには授業の足跡が必要ですよ。その一番の方法はノートをしつかりと取らせることです。ノート指導は教師にも、子どもにも忍耐のいることですが、これが子どもを変え、親の信頼を得ていく最高の方法です。4月は教科書を写し、少し板書を書く程度でいいので、必ず教師の一言を書き添えて返しましょう。

### 久保のコメント

流石は14回も2年生を持たれたベテランの取り組みですね。2年生の特性をよく生かした取り組みだと思います。子どもとのふれあいを心地よくできるシステムは流石ですね。音読は学力づくりの基礎ですから4月に徹底するのは得策ですね。それに授業の中で班活動を学ばせるのはよいと思います。

ベテランのようにはいかななくても、その視点を大切にして実践を進めてくださいね。なお、「まったく怪しげな哲学入門」とい

う題の使用について批判がありましたので、  
変えさせて頂きました。頓首